

分野連携企画報告書

行事（企画）名 ライフサポート

行事URL

1. 開催日・会場 2023年9月3日(日)・東京都立大学 南大沢キャンパス

3. 企画内容

医療福祉産業は医工学だけでなく機械工学、情報工学、電気電子工学などを融合した極めて分野横断的なテーマであり、これら分野等のニーズとシーズを連携して産業を推進することでさらなる発展が期待される。しかしながら各部門で活発な研究開発活動への取り組みがなされているものの、医療福祉健康産業との連携についてはさらなる展開が必要な状況にある。本フォーラムはこれらの取り組みを広く一般市民および多分野の専門職の方に理解して頂き、相互理解や連携をフォーラムを通じて推進する。特に今回はロボティクス・VR技術の融合的最先端技術に関して検討する。

4. 連携の成果

まず最初に東北大学・平田泰久教授よりムーンショット型研究開発事業の説明が行われ、少子高齢化や地球温暖化、大規模災害など日本が直面する様々な課題解決に向け「日本発の破壊的イノベーション」を創出し、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を行うコンセプトが紹介され、その文脈における医療福祉機器の方向性が検討された。これに続く講演も単なるロボティクス・VR技術に留まらない広い分野の連携研究例が紹介され、その必要性と可能性が示唆されていた。様々な分野の意見、例えば心理学や社会情勢なども含めた極めて挑戦的で大胆な研究方針が求められていることを再認識する機会となった。

2. 企画部門 機素潤滑設計部門、ロボティクス・メカトロニクス部門、バイオエンジニアリング部門、機械力学・計測制御部門（以上、福祉工学協議会参加部門）

5. 今後の課題（苦勞した点、課題点、他の企画へのアドバイス等）

○苦勞した点

市民フォーラムとして開催するため、なるべく多くの参加者を集めるよう、チラシの作成やそれを元にした広報活動をワーキングメンバーを中心に行った。また、研究者や開発従事者も参加しやすいように、最先端の内容を盛り込んだテーマ設定とした。また、身体障害者が参加しやすいよう会場はバリアフリーで参加できる場所を選び、大学構内でも最も公共交通機関に近い位置にて開催を行った。

○課題点

市民フォーラムとして一般市民の参加を期待したが、フォーラム参加者約40名のうち、一般市民と思われる参加者はごく少数に過ぎなかったと思われる。多くの参加者を集めるために参加費を無料にし、事前登録などを必要としない形態をとったため、参加者名簿などは作らなかった。そのため、研究者や開発従事者以外の一般市民がどの程度集まったのか不明のままとなった。

○他の企画へのアドバイス等

市民フォーラムとしての開催の際は参加者名簿やアンケート調査など、ある程度のフィードバックが得られる工夫が必要である。また、Webページの活用など効果の高い広報活動なども必要になってくるかもしれない。